

「ゆとりの道路」

穴喰中学校 一年 堀内 ひより

私は、どんな道を渡るときでも、必ず二度、左右を確認するようにしています。そして、車が来ていないことを確かめてから、ゆつくりと渡り始める。これは、私にとって当たり前の習慣です。しかし、この習慣が生まれた背景には、忘れられない一つの出来事があります。

あれは、小学四年生の頃でした。スクールバスのバス停に行くために、私は走って道路の反対側へ渡りました。ちょうど道路の半分ほど走ったところで、大きなクラクションが鳴りました。おどろいて横を見ると、大きなトラックがすぐ目の前を走っていききました。もし、トラックの運転手が避けてくれなかったら。私があと一步、前に出ていたら。そう思うと、今でも胸が締め付けられるようです。

あのととき、私は初めて「死」というものを身近に感じました。

幸い、私は無傷でした。しかし、その日から私は、道を渡るのが怖くなりました。私の家の前の道は、工事車両が多く通るのです。中には、スマートフォンをさわっていたり、ものすごいスピードで走っていく車もあります。私は、心にゆとりを持って歩けるように、いつもより家を出る時間を早くしました。バス停に着くまで、車が来たら立ち止まり、安全を確認してから歩き出す。このことを習慣づけたことで、危険な目にあうことが、全くと言って良いほどなくなりました。

しかし交通安全は、どれほど歩行者側が気をつけても、車を運転している人が気をつけなければ意味がありません。カーブでもブレーキを踏まずに、すごいスピードで走り去って行く車。誰かと通話しながら、ふらふらと走る車。そんな車を、私はよく見かけます。逆に、私が道を歩いているとスピードを落として、ゆつくり走ってくれる車や、道を渡るうとしている人に、止まって道を譲っている車も多くあります。

私は、交通安全で一番大切なことは、「心にゆとりをもつこと」だと思います。歩行者も、通行車両も心にゆとりをもって行動すれば、交通事故も少し減るのではないのでしょうか。

私は、小学四年生の出来事をきっかけに、交通安全について真剣に考えるようになりました。

交通安全は、誰かに強制されるものではありません。それは、自分自身と大切な人の命を守る、一人一人の心の持ち方なのだと思います。

私は、あの体験を決して忘れません。そして、これからも心にゆとりをもって、道を歩けるようにしたいです。

いつも、心にゆとりをもって、一人一人が交通安全に気をつける。このことを当たり前にするために、まずは私から、交通安全のルールを守れるようになりたいです。

みなさんは普段、どんなことを考えながら道路を渡っていますか。